

●ヤマトサンショウウオ卵囊、過去最高の数を確認

これまで毎年この季節はヤマトサンショウウオの産卵の季節になっています。調査を開始して5年目になりますが、毎年の産卵池に土砂が流れ込み、昨年秋にその土砂を除去したので今年の産卵はないのではないかと大変心配しました。周囲の環境が変化したのですが、今年の5回目の調査でこれまでにない卵囊が26対発見されています。カスミサンショウウオは杉の葉っぱに好んで産卵するようだと桜谷保之先生の助言を金田さんが思い出して数本の枝を池に投げ入れて試みてみると見事にその枝に3対の卵囊が産み付けられています。ほかに2対のものが6個ありました。効果が大きく発揮されたのです。少なくともメスが26匹とオスが数匹以上、この池を中心に確実に生息していることが証明されました。これからもしばらくは産卵の季節が続くと思われるので、さらに観察を続けたいと金田さんは意気込んでおられました。



●里山展 毎日のガイド役皆さんが引き引き受けて

二週間前に展示企画をどうするのかと検討した事務局会議では積極的な意見はあまり出なく、どうなることかと思われていました。3月2日にふたを開けてみると、しっかりとした展示風景に出来上がっていました。メインの源氏物語に登場する草花は近藤和男さんが京都市内の等持院で公開された作品で見事なシャッターチャンスで撮影されたもので見ごたえある作品ばかりでした。ご覧になった皆さんは、相当時間をかけてじっくりとご覧になっておられる姿が印象的でした。かなり難しい作品を展示した展示会だったので受け入れられるかと不安がありましたけれど納得するまでご覧になっていただく姿に喜びを感じました。またマスコミで何回も報道されたせいもあってか中聖牛に強い関心を持つ方々がかなりおられて厳しい質問が投げかけられガイド役の当番の方はかなりご苦労をしていただきました。展示作品の中に一部不正確な部分を発見してご指摘をいただいたこともありました。6日間の展示でご芳名を記入いただいたのは184名でこれまでの新記録でした。そしてガイド役を受け載っていただいたのは30名を超える皆さんが分担をして、ご案内をいただきました。ごくろうさまでした。

●13日（土）9:30から炭窯開き

今回の炭焼き体験はこれまで経験したことがない出来事の連続でした。それで窯開きが大いに気にかかります。まず窯の中に昨年焼いた炭を1年いれたままにしておいて、取り出してみると少し湿気を帯びていたこと、生産できた量がかなり減少していたことなど、いろいろとあり、今年初窯で着火して間もなく炭窯の温度が急激に低下していることなど考えられない出来事が続きました。使用

した原木は1年間乾燥させたもの、木酢液は全くできなかったことなど予期しない出来事が続いています。そこでの生産がどうであったか、非常に興味が沸く釜開きです。

●13日(土) 13:30 イタセンパラ打ち合わせ会、井手町 京都府立勤労者福祉会館

同じ13日土曜日の13時30分からイタセンパラの打ち合わせ会、対策会議を井手町で開催することになっています、早くから日程を決定してきましたが、なかなか具体的に組み立てられず準備不足となっています。一部事務局のみの出席ということも懸念されますが、これも現状では予想できる範囲かもしれません。とにかく集合できるもので対策を考えられればと思います。周知連絡が遅れてしまって申し訳ありませんが、ご参集をお願いいたします。

●2021年度木津川希少種植物調査管理業務・申請書提出 40ヵ所調査点検と除草作業

河川協力団体として申請の条件で、それをクリアできているのでほぼ昨年通りの内容で申請することにしました。八幡市の京阪鉄橋付近から、木津川市加茂町小谷付近まで木津川堤防に40ヵ所の希少種植物調査とその場所の除草作業を通じての管理業務についてであり、これまで2017年から発注を里山の会が受けてきました。草刈り面積は16000㎡です。今年も受注できましたら作業が求められますので皆様方のご協力をお願いいたします

●木津川の樹木伐採進む

木津川の右岸の玉水橋下流域、同じく右岸で山城大橋下流域について樹木伐採を木津川出張所をお願いしてきました。2月末までに二つの要望箇所の激しく繁茂していた樹木は全面的にきれいに抜木されています。樹木は片付きましたが春の草花が芽吹き始めるとカラシナが背丈よりも繁茂してとても進入できなくなります。気を緩めることなく少なくとも早め早めの草刈りが求められ現状を維持していきたいものです。

●竹蛇籠への工夫 シリーズ3回目

里山の会に河川レンジャーの呼びかけがされて参加をした。そして近隣の山の植物や生き物への関心が木津川など川の自然にも興味を深めた。年間数回の魚とりの経験から生き物の現状を知り外来魚による影響が及んでいることや、川が排水路になって汚染されてきたこと、そして川を元に戻そうとする運動が始まっていることを知った。

里山の会の多くの人々は、植物に関心があり堤防を歩いて花を訪ねた。この行動からゴミに関心を持ち、川の清掃活動が始まった。ゴミ拾いを始めると徐々にポイ捨てのゴミが少なくなった。散歩する人や自動車利用者のマナーがよくなってきれいになってきた。

第2新名神高速道路の木津川橋梁建設工事が始まったころ工事事務所を訪ねた。基礎工事の見学依頼をさせてもらい現場の視察時に竹門先生が来られ、地下数十メートルの湧水から生物がいると説明を受けた。見学者一同おどろいたものである。これが竹門先生との出会いである。

●深田理事長、元気な顔を見せてくださる

深田三郎理事長が昨年10月に脳梗塞を発病、その後の長いリハビリ入院治療から退院され、3月10日の事務局会議に出席していただきました。事務局会議出席者一同、深田さんの元気な顔を伺って一安心をしました。自宅から寺田駅まで自力歩行し、新田辺駅から事務所までも歩行されました。片道約5000歩で往復すると約一万歩という退院後初めての長歩行です。今後もうつらい歩行ですが頑張ってお出席していただくことをお願いしました。